

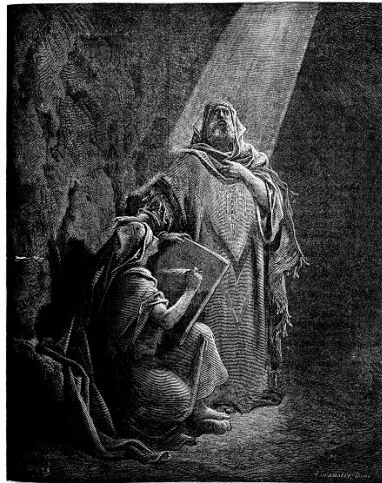
# 聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

## 第6章 預言者における祈り⑥



### エレミヤV

夜の祈りは、周囲の暗闇の色合いを取り込むものです。しかし神は、たとえ祈り願う者がご自分を恐怖と破壊の元凶として責め立てるときでも、理解し、聞いてくださるのです。神だけが、口から出る言葉だけではなく、心も知ってくださっているからです。



BARUCH WHITING: JEREMIAH'S PRAYER.

主よ。ご覧ください。顧みてください。あなたはだれにこのようなしうちをされたでしょうか。女が、自分の産んだ子、養い育てた幼子を食べてよいでしょうか。主の聖所で、祭司や預言者が虐殺されてよいでしょうか。幼い者も年寄りも道ばたで地に横たわり、私の若い女たちも若い男たちも剣に倒れました。あなたは御怒りの日に虐殺し、彼らを容赦なくほふりました。あなたは、例祭の日のように、私の恐れる者たちを、四方から呼び集めました。主の御怒りの日に、のがれた者も生き残った者もいませんでした。私が養い育てた者を、私の敵は絶ち滅ぼしてしまいました。（哀歌2：20-22）

エレミヤの祈りは二重の暗闇を反映しています。

すなわち ①その土地における、打ちのめされるような破壊という心の重荷と ②人々を覆う霊的な暗闇ののろいという二つです。しかし、今日の人々がこのような暗闇を体験するときには、「光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった」（ヨハネ 1:5）という、恵みに満ちた慰めがあるのです。

エレミヤは、神に答えと助けを求めて叫びつつ、神の民の状況について嘆き続けます。

あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり、…

私の民の娘の破滅のために、私の目から涙が川のように流れ、私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、主が天から見おろして、顧みてくださる時まで続く。…

主よ。私は深い穴から御名を呼びました。あなたは私の声を聞かれました。救いを求める私の叫びに耳を閉じないでください。私があるに呼ばわるとき、あなたは近づいて、『恐れるな』と仰せられました。主よ。あなたは、私のたましいの訴えを弁護して、私のいのちを贖ってくださいました。主よ。あなたは、私がしいたげられるのをご覧になりました。どうか、私の訴えを正しくさばってください。(哀歌 3:44、48-50、55-59)

エレミヤのこの祈り(哀歌 341-66)には、心からの悲しみとともに、確信に満ちた信頼の響きも含まれています。神がご自分の民を熾烈に苦しめている人々を裁いてくださるようという、通常の願いの中に埋もれているのは、「私のいのちを贖ってくださいました」という証しです。心の深淵にあるこのような涙の泉を表現するために、エレミヤはなんと叙述的な言葉を用いていることでしょうか。神は、突き抜けることのできない雲に囲まれており、祈りがあたかも全く届かないかのように思われました。預言者の目から流れる涙は川のようにであり、その涙は枯れることなく流れ続けました。しかし、エレミヤは信じています。神は過去には聞いて答えてくださったのです。したがって、最終的にその雲は突き抜けることができるのであり、神からの応答があるはずなのです。神は聞いてくださいます。神はこの打ちひしがれた預言者に近づき、「恐れるな」と慰めを語ってくださるのです。

イスラエル人は既に、隷属や虐待、飢饉、屈辱など、戦いの恐怖を体験していました。エレミヤは彼らの現実  
に直面していたがゆえに、神に最も聞いていただける形で祈っていたのです。自分の置かれた状況が無視したり  
否認したりする人々は、自己欺瞞の犠牲となり、偽りの宗教を実践することになります。それは決して潮目を変  
えることはできず、困難を解決することはできないのです。

主よ。私たちに起こったことを思い出してください。私たちのそしりに目を留めてください。顧みてください。私たちの相続地は他国人の手に渡り、私たちの家もよそ者の手に渡りました。私たちは父親のないみなしごとなり、私たちの母はやもめになりました。… 私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても、休むことができません。私たちは足りだけの食物を得ようと、エジプトやアッシリヤに手を伸ばしました。私たちの先祖は罪を犯しました。彼らはもういません。彼らの咎を私たちが背負いました。奴隷たちが私たちを支配し、だれも彼らの手から私たちを救い出してくれません。私たちは、荒野に剣があるために、いのちがけで自分の食物を得なければなりません。… 私たちの頭から冠も落ちました。ああ、私たちにわざわいあれ。私たちが罪を犯したからです。私たちの心が病んでいるのはこのためです。私たちの目が暗くなったのもこのためです。… しかし、主よ。あなたはとこしえに御座に着き、あなたの御座は代々に続きます。なぜ、いつまでも、私たちを忘れておられるのですか。私たちを長い間、捨てられるのですか。主よ。あなたのみもとに帰らせてください。私たちは帰りたいのです。私たちの日を昔のように新しくしてください。それとも、あなたはほんとうに、私たちを退けられるのですか。きわみまで私たちを怒られるのですか。(哀歌 5:1-3、5-9、16-17、19-22)

エレミヤは、聖なるみことばにしてはあまりにも素直すぎる仕方で彼らの困難を語っていると考える人がいるかもしれません。しかし神は、私たちの祈りが現実をオブラートに包むものとなってしまうのをお望みではありません。私たちに、自らを率直に表現しなければならぬ時が少なくとも一つはあります。すなわち、神の助けと解放を求めて御前に出る時です。

エレミヤは一貫して、神の民の信仰復興を求める情熱によって捉えられていました。今日の世界もまた同じ率直さを必要としています。主の御前に、この時代の家庭と社会の惨状を携え出るといふ率直さです。

## ? 質問

- 1 祈り願う者が神ご自身を恐怖と破壊の元凶として責め立てるような祈りをする時に、神はどんな態度をとられますか？それはなぜですか？ 私たちが暗闇を体験するときでもどこに慰めがありますか？
- 2 突き抜けることのできない雲に囲まれて、祈りが全く届かないと思われる時、どのようにして最終的にその雲を突き抜け、確信を得ることができますか？ あなたにもエレミヤが祈っているのと同じような経験がありますか？
- 3 自分の置かれた状況を見たり否認したりすると、どんな結果になりますか？神は私たちがどのように祈ることを願っていますか？ あなたは神に向かって率直に祈っていると思いますか？
- 4 今日、家庭や社会の惨状を見据え、情熱を持ってリバイバルを求める必要があります。どんなことが、あなたにとって、自分自身の課題や状況に関して、無視したり否認したりせずに神に率直に訴えるべきことだと思いますか？
- 5 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。暗闇の中を歩むときも、今までの主の恵みを思い起こして、取り囲む雲を突き抜けることができる確信に立たせて下さい。ごまかしたり否認したりせず、いつもあなたの前に正直に自分自身を言い表すことができますように。